

◆七福神と孝行息子の
色鮮やかな奈良絵本

大黒天や恵比寿天など七福神の信仰は室町時代後期以降、民衆に広まり、福神を題材にした芸能や物語が作られた。

御伽草子『大古久まい』は、正直で親孝行者の主人公が観音や大黒天、恵比寿天に導かれ、財を成し、身を立て、良縁・子宝にも恵まれるとした物語。

吉野に住む大えつのすけは貧しいながらも日々親孝行に尽くした。ある日、京の清水寺に参詣し、親への孝行を祈念すると、観音から一本のわらを授かった。わらを持って子安地藏に向かうと、鼻血で困っている

梨売りに出会った。わらを梨売りの小指に結ぶと鼻血が止まり、お礼に梨をもらった。その後も人々を助け、梨を絹、絹を馬へと交換し、この馬が黄金三枚で売れた。吉野に戻った大えつのすけは屋敷を建て、ますます親孝行に励んだ。

その年の暮れ、大えつのすけの親孝行に感心した大黒天が来訪し、宝物を授けた。年が明け、恵比寿三郎も現れ、共に舞いや相撲をして、正月の宴を楽しんだ。大黒天は「一に俵踏まえて、二につこと笑うて、三に酒造りて、四つ世の中良いように、五ついつものごとくに、六つ無病息災に、七つ何事無いように、八つ屋

敷広めて、九つ蔵を建て並べ、十でとうと治まる御代こそ、めでたかりけれ」と舞を披露する。その夜、宝物を狙った盗賊や悪霊が来襲したが、大黒天や恵比寿天の活躍により、事なきを得た。大えつのすけの噂は都まで広がり、帝から厚遇され、姫君と結ばれ、五人の子も授かり、一族は末永く幸せに暮らした。

本書は表紙の見返しに金が使われ、色鮮やかに描かれた挿絵のある奈良絵本。掲出の挿絵は、大えつのすけが家族と幸せに暮らす屋敷に大黒天が再び現れ、一同の前で祝福の詞をかんで舞う場面である。

(天理図書館 西田裕美)

<天理図書館のお知らせ>

Tel 0743-63-9200 URL <https://www.tcl.gr.jp/>
 ◇平日(午前9時~午後5時半) 土・日・祝(午前9時~午後4時半)
 ○12月の休館日: 5日・12日・19日・24日/年末年始12月27日~1月6日
 (本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください)
 ※最新の情報については公式HP、Twitterでご確認ください。



▶【だいこくまい】

江戸時代前期写
2冊
縦23.5cm×横17.0cm

